

T C A

— NEWS —

Vol. 2 秋 号

発行
**富山市民国際交流協会
広報委員会**

〒930 富山市丸の内1丁目4番50号
富山市国際交流センター(市図書館1階)内
TEL (0764) 42-1109 FAX (0764) 42-3807
発行責任者 広報委員会委員長 岡田昌代

—— 富山市民国際交流協会キャンペーン 受付中 ——

家庭で眠っている衣類をブラジルへ送りませんか

富山市の姉妹都市モジ・ダス・クルーゼス市の保育所維持費と児童養育資金協力活動

おかげさまで、9万点集まる



北日本新聞
H.5.9.6(月)

集まった衣類を選別し、段ボール箱に
詰め込むボランティアの主婦ら＝富山
市国際交流センター

眠っている衣類をブラジルへ

家庭で眠っている衣類をブラジルへ送ろう。民間レベルでの国際交流を推進している富山市民国際交流協会は、家庭で不要になった衣類を集め、富山市と姉妹都市のブラジルのモジ・ダス・クルーゼス市へ送るキャンペーンを八月から展開中だ。集まった衣類はモジ市でチャリティーバザーに出され、その収益金は財政難に悩むモジ市の保育所維持費などに充てられる。富山市立図書館内にある同市国際交流センターでは、ボランティアの主婦らによる衣類の選別作業が行われている。



富山市民国際交流協会の呼び掛け

収益金を教育費などに

ブラジルのモジ・ダス・クルーゼス市は、貧困率が高く、子供たちが十分な教育を受けられない状況にある。同市では、子供たちの教育費を支援するために、市民からの衣類の寄付を呼び掛けている。富山市民国際交流協会は、この呼び掛けに応じ、富山市の家庭で眠っている衣類をブラジルへ送り、同市の教育費に貢献することを呼び掛けている。

募集の衣類は、子供服、大人服、靴、小物など、清潔で着られるものに限る。また、寄付の際は、お名前と住所を記入したカードを同封してほしい。

富山市民国際交流センター（富山市図書館1階）にて受付中。

市民国際交流協力講座開催

毎回熱心な会員の方々が受講

協会が主催し国際協力事業団北陸支部、富山県青年海外協力隊を育てる会の共催を得て、第1回（8月7日）の佐々学富山国際大学学長の講座で開講した。受講申込者は、ホットな話題ながら市民の関心がもう一步のところであり、残念ながら当初定員としていた50人を下回りはしたが、毎回熱心な約20～30人の会員の方が受講された。

佐々学氏の医学研究にまつわる国際協力をはじめ、（財）名古屋国際センターの亀山江代氏の世界寺小屋運動における名古屋での書き損じ葉書収集事業の取り組み、金沢の松田園子氏の、金沢での活動が世界に知られるようになり、その後、金沢を世界に開く市民の会につながった体験等のお話があった。そして富山からは富山県青年海外協



力隊を育てる会、富山YMCA、富山ユネスコからそれぞれの団体で取り組んでおられる国際協力活動の様子を報告いただいた。

また、後半には開発教育に詳しい教育評論家の水野富士夫氏が青年海外協力隊など顔の見える国際協力の必要性、NGOの実態についてはシェプラニールの川口善行氏、第7回（最終回）には国際協力事業団の阿部英樹氏のわが国の国際協力の現状についてお話を伺った。

この講座を受講した会員からは、これからの活動の参考となるとともに、日本の国際協力の現状が分かり大変勉強になったとの意見が寄せられた。

「国際交流担い手シンポジウムin富山」開催



本協会共催の「国際交流担い手シンポジウムin富山」が去る7月31日（土）と8月1日（日）の両日にわたり開催された。

7月31日（土）は、富山市民プラザで午後1時からのオープニングセレモニーに続いて東京大学教授の平野健一郎氏が、「新しい国際社会をつくる個人」と題して問題提起の講演を行った。

続いて、会場を移し「富山の外国人が抱える問題」、「未来の地球市民を育てよう」など6つのテーマ別に分科会が222名の参加者を集めて開かれた。どの会場でも熱心な討論が行われ、30分のティーブレイクをはさんだ3時間半におよぶ分科会も、もっと時間が欲しかったという声が出るほど活気溢れるものとなった。

そして、6時半からは「わし國」に約160人の参加者を集めて交流パーティが開かれた。

8月1日（日）は、午前9時から高志会館に約190人の参加者を集めて、朝日新聞社「AERA」発行室長の西村秀俊氏が、「大切なのは国際化より

人際化だ」と題して記念講演を行った。

続いて、「日常生活の中での国際交流」のテーマの下、青葉学園短期大学教授の阿部汎克氏の司会で全体討論会が開かれた。1日目の各分科会討議の報告の後、各分科会のパネラーから国際交流の現状をふまえて今後どのようにあるべきか熱心に意見が交わされた。会場からも次々と手が上がり、時間を制限しての発言となるほどだった。

最後に2日間の討論の成果をまとめて「富山宣言」を採択して12時30分過ぎに閉会した。

富山宣言

私達は、「国際交流担い手シンポジウムin富山」で、異なる文化を持つ人々が共に生きるために私達「個人」が意識を変え行動を起こすことが必要だと確信しました。

そのために私達は、

まず、自分をそして異文化を持った相手をより正しく知る努力をします。

そして、今、自分の日常生活の中でできることを見つけ、行動します。



さらに、このシンポジウムをきっかけに人との出会いを大切にして、国際交流の担い手である私達のネットワークを広げます。



写真で見る 国際交流

▲
ベルギー交換学生（25名）▶
が8月6日富山市を表敬訪問
富山ロータリークラブが交
流交歓（8月5日～13日ま
で滞在）



▲ ◀北陸環日本海経 済交流促進協議会 等によるロシア経 済人の研修

9月6日から約1週
間富山市中心に行わ
れた



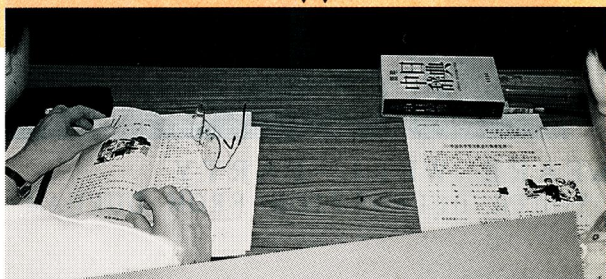
▲▲ 毎週火曜日の夜は日本語の勉強です
市内在住外国人の方々が熱心に「こんにちは」「あり
がとう」（センターで15人程が受講）

▲ 富山市経済友好訪問団（10名）は、9月7日～14 日、中国を訪問

友好都市泰皇岛市などの経済とりわけ貿易、外貨、金
融、税金等の現況について視察し、親善を深めた。



中国語講座（毎週金曜日の夜センターにて）
「中国のことを勉強しているので…」
「仕事の関係で…」といろいろな理由で15人ほどの方々
が受講されています。



ダーラム市の高校生と交流

国際交流に参加して

佐々木久恵（主婦）

どしゃぶりの雨の中、バスは一路高山へ!! 私にとっての国際交流は雨の中スタートした。国際交流に参加する。そんな大それたものではなく、県外から来た私が富山市を、富山の皆さんを好きになったように、富山を訪れる外国の人たちが少しでも富山に対していい印象で帰国されるように、私の国際交流はそんなきっかけでした。高山の建物、おみやげに興味のあるダーラムの高校生たち、ふらふらと歩き回ります。迷子にならぬようその子たちを追いかけながら、英語は中学程度（それ以下）にしかわからない私だけど、目と目でボーディングエジで意志の疎通は、可能なのだという私の確信は、まさしくその通り。国際交流というのは、すべての人に身近なものだと実感するのでした。『また、参加したい』どこかで私のちっぽけな力が役に立つなら…。それがボランティアの始まりでしょうか?。とっても楽しい一日でした。又、富山にきてね。今度はもう少し英語を勉強しておくからね。ちょっぴり自己嫌悪におち入りながら帰宅した私でした。



▲FARE WELL PARTY
YOUTH DELEGATION FROM DURHAM



▲アルペンスタジアムにて



▲富山市立月岡小学校にて



▲富山県立富山工業高校にて

スコット女史を迎えて

ボランティア委員会委員長 小池和子

姉妹都市ダーラム市との高校生交換プログラムも軌道にのり、今年は富山が受け入れる番だった。私はボランティア委員として期間前半の7月7日から13日まで引率教師のスコット女史のホストファミリーを引き受けることになった。

写真を添えた事前の手紙には、戦後3年間父親が空軍にいられた関係で日本の基地で過ごしたこと、ご主人が5年前に亡くなり、3人のお子さんは皆結婚されミシガンに住んでいること、現在の高校カウンセラーの仕事が生きがいであることが書かれていた。倍位の応募者の中からインタビュー等で選ばれた生徒たちも日本へ来るのを楽しみにしていたらしい。両市の先生、生徒そしてホストファミリーの方々との歓迎会、送別会、高山への旅行は忘れ難い。日帰りの白雲楼ホテル、「ロイヤルウェディング」や「黒部の四季」のビデオ等で家でくつろいでもらった2日間も、私と同様彼女の心にも長く残るに違いないと思う。

富山市民国際交流協会 委員会活動報告

第1回

姉妹友好都市委員会

今回より協会の事業推進のためご活躍の5つのそれぞれの専門委員会をご紹介していきたいと思います。
まず第1回は姉妹友好都市委員会をご紹介いたします。

姉妹友好都市委員会委員長 森井一好

近年、国際交流の波は国と国のレベルという枠組みを越え、地域団体や個人レベルにまで広がってきました。

この委員会は市民レベルで、主として富山市が提携している姉妹都市の人々との交流を通じて異質な文化を理解しあうことを目的にしております。

まず、7月には、アメリカの姉妹都市であるダーラム市の高校生の皆さんを受け入れ、ホーム・ステイを通じて楽しい交流ができました。

現在、他の委員会の人々とともにブラジルのモジ・ダス・クルーゼス市の懇請にこたえて、市民の皆さんのボランティア活動として、衣類を集め発送する作業を行っています。

具体的な活動を通し、富山を世界に広めようと張り切っています。

また、最近色々な国から富山にやってくる人々も多く、これらの人々にできるだけの手助けができればと心掛けてもおります。

異質な文化に接し、それを受け入れ豊かな市民生活ができるように念じています。

すでに、海外経験のある人々やボランティア活動を通じて自分の生活を豊かにしようとしている人々が30人程度参加しています。

どなたでも、気軽に、私どもの委員会に参加していただけることを期待しています。

お知らせひろば

展示ギャラリー催事予定

1. フォスター・チャイルド紹介展示
日時：10月14日（木）～10月21日（木）
主催：フォスター・プラン富山支部
（連絡先：林川 ☎37-7211）
2. 国際児童クリスマスカード・コンテスト
日時：10月26日（火）～10月31日（日）
主催：(社)富山青年会議所アジア交流委員会

姉妹友好都市だより

	モジ市	秦皇島市	ダーラム市
9月	衣類収集	富山市経済友好訪問団経済視察のため訪秦（協会から松岡事務局長派遣） 富山市民病院医師2名医学交流のため訪秦 秦皇島市外事弁公室帳立起氏 日本語研修のため来富（94年3月まで） 秦皇島市体操指導者趙友輝氏 富山市ジュニア体操指導のため来富（12月まで）	
10月	衣類発送	秦皇島市実務協議団平成5年度交流協議のため来富（予定） 秦皇島市第一病院の医師2名来富（予定）	久保田会長が富山商工会議所米国経済視察団団長として訪問 富山市教師・市職員交流のため訪問
11		秦皇島市商工業研修生来富（予定）	ダーラム市職員2名来富（予定）
12	衣類到着（予定）		

総務企画委員会より

1. 国内研修について
研修テーマ 財大垣市国際交流協会と日本の伝統文化「奥の細道」に学ぶ
研修日時 10月16日（土）～17日（日）
（参加についてのご案内は別途）
2. 会員の国外研修等に関するアンケートについて
今後の活動の参考にしたいと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。

「とやま国際環境会議」開催

テーマ 『地球サミットフォローアップシンポジウム』

会場 名鉄トヤマホテル 4F 瑞雲・彩雲
主催 環境庁 富山県 富山市

月日	時間	テーマ
10月26日（火）	AM10:00～	基調講演 1. 「地球サミット後の世界の取組み状況と将来展望について」 2. 「日本における地球サミット後の取組みと今後の方針について」
	PM1:30～	パネルディスカッション（Ⅰ） 「地球環境保全に向けた地方自治体の国際協力について」
10月27日（水）	PM1:30～	パネルディスカッション（Ⅱ） 「地球環境時代における地方レベルでの環境保全活動の推進について」

問合先 富山市役所市民部環境整備課
（☎0764-31-6111 内線2494）

ファミリーフェスティバル

テーマ ゲーム&グルメinYMCA
日時 1993年11月3日（祝日）午前10時～午後3時
会場 富山YMCA堤町本館全館
主催 富山YMCA
種目 ゲームやクイズは当日のお楽しみ
中華料理（昼食）
料金 ゲーム参加者は500円（プレイ昼食代）
定員 100名～200名
連絡先 ☎0764-25-9001（担当：土肥、藤城）

ネパール訪問

県内のそばどころ利賀村では、そばの原産地といわれるネパール国ツクチェ村との間に、そばがきっかけで親交が深まり、昨年の世界そば博覧会に参加の返礼として、村長をはじめ15名が今年4月5日から10日間このツクチェ村を訪れ、ほほえましい国際交流が実現し、私も同行しました。

飛行機を富山から5回乗り継いで馬で3時間半、やっと到着しました。

▼村人総出で出迎え



提供 富山県写真家協会会長 青山清寛氏

「未来へはばたく翼」出発

第2回富山市婦人海外派遣団(15名)
第11回富山市青年海外派遣団(24名)
は、国際的な視野を広めるとともに、交流、交歓を通じて相互理解と友好を深めるため10月15日(金)より2週間の予定でシンガポール・インドネシア・オーストラリアへ向けて出発します。



編集後記

今年は、夏を待ちながらいつの間にか秋のなかに居ました。
広報委員会も、手探りの中で夏色の「TCA-NEWS」創刊号を熱く発行してホッとしたのも束の間、もう秋色の「TCA-NEWS」2号の季節になってしまいました。

冷夏といわれた中で、それぞれのご活躍でイベントも成功し、感動の交流も多くあったことでしょう。私も取材を忘れてイベントに興じることがしばしばでした。ところで10月は国際協力の月というのを知っていましたか？

小さな事からも、参画、参加しましょう。

では、たくさんのご投稿をお待ちしております。 広報委員長 岡田昌代

キッチンで国際交流



中国遼寧省より来県中の富大講師(中国語)呉麗艷(ウリイエン)さん一家を招いてホームパーティ。呉さんは愛娘菲雅ちゃんと餃子を器用に手づくり中

交流協会会員 奥村裕子さん

機関紙交換コーナーできる

TCA-NEWS-創刊号を各地の国際交流諸団体へ送付しましたところ、それぞれから機関紙が送られてきて、これからは友好的にコミュニケーションを図っていけるようになりました。

各地からの機関紙は国際交流センターの機関紙交換コーナーの方に整理して展示されております。

各地、団体の活動状況などを楽しみながらご覧になって下さい。



TCA original telephone card が、できあがりしました。
ステキなデザインですよ。
国際交流センターへお問い合わせください。